



竹魚礁10基を海女発祥の海に設置

一般社団法人 九州のムラ

海の鎮守の森プロジェクト ～森、川、海を繋いだ 宗像海人族の叡智に学ぶ～

入門助成

1年目

実践

竹魚礁設置数

10基

市民向け
シンポジウム参加者数

160人

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課題

〆磯焼け問題、と呼ばれる海の中の藻場(海藻類)が枯渇し、砂漠化し、魚介類がとれなくなっている現象を解決し、海女の発祥の地である鐘崎の海の環境を保全したい。

目標

上位目標としては海女の発祥地の鐘崎の藻場が再生され豊かな海が保全されること。活動目標として竹魚礁20基沈めること、市民が海の環境を守る海の鎮守の森構想に興味をもち、シンポジウムに100名以上参加されること。

活動内容

藻場の再生を進めるために、地元水産高校が実践している竹魚礁の設置を、地元中高生の環境教育プログラムとして宗像国際環境100人会議にあわせて、環境問題に意識の高い企業、学識経験者と一緒に実施。今回10基の竹魚礁を作り設置。その様子は多数のテレビ局・新聞社が取材し広報していただいた。あわせてわれわれが取り組む「海の鎮守の森」構想を広く知ってもらうために、市民啓発のためのシンポジウムを開催。



海の鎮守の森構想を啓発するための市民シンポジウム

達成できなかったこと

今回、竹魚礁は目標20基に対し10基のみの設置に。理由は事務局体制の問題と地元漁師の理解に時間を要したこと。今後は竹魚礁の効果測定など〆見える化、の仕組みが必要。

今後の展望

漁師の協力体制を得るため、竹魚礁が環境改善に効果があることを数値や映像等で視覚化。事務局体制の強化。

成果と工夫したポイント



成果

海の環境改善については、数値的な検証を行う仕組みまでは構築できなかった。市民の海の環境問題についての興味関心度合いは、102名のシンポジウム参加者の約9割の方々が「関心あり」と回答。

工夫

「世界遺産」、「豊かな海づくり」の動きとも連動し、よりメディアと連携できるよう心がけた。